

上下水道事業経営協議会 説明資料  
【令和3年度 水道事業及び下水道事業会計決算見込みについて】

## 1. 公営企業会計の収支について（1ページ）

水道事業や下水道事業は使用者から「水道料金」や「下水道使用料」でその経費をまかなう「独立採算制」を経営の原則としています。その会計処理は、民間企業と同じような企業会計制度が採用されており、「収入」と「支出」が「収益的収支」と「資本的収支」の二つに区分されているのが大きな特徴です。

### （1）収益的収支

「収入」は水道料金又は下水道使用料などの事業収益で、「支出」は人件費・光熱水費・修繕費・減価償却費（注1）・支払利息などの費用で構成されています。その収支の差引がいわゆる「黒字」、「赤字」と言われるもので、黒字の場合、その利益は企業内部の補てん財源となり、将来の資本的支出のために使われます。

### （2）資本的収支

新設や老朽化対策などの建設改良費や借入金である企業債（注2）の償還などの「支出」と、その財源となる国庫補助金や企業債の発行による「収入」などにより構成されています。企業債に頼りすぎると、将来の返済額が重い負担になります。通常、資本的収支は支出が収入を上回るため、その不足分は収益的支出によって生み出された企業内部の補てん財源を充当します。

公営企業の予算では「収入」や「支出」の性質の違いにより経営成績を計算する「損益取引（収益的収支）」や建設投資や資金調達などの投下資本の増減に関する「資本取引（資本的収支）」が区別されています。

## 2. 水道事業会計の決算見込みについて（2ページ）

※決算額については、議会承認前となるため、すべて見込額として掲載。

### （1）水道事業会計の決算見込み

上段（1）決算見込みの棒グラフは、左から右に向かって、収益的収入、収益的支出、資本的収入、資本的支出の順で、主なものは一番左の棒グラフに事業収入の根幹である 水道料金収入（水色） 101 億円があり、水道料金の改定により、対前年度比では、約 6 億円の増収となっています。その右の棒グラフは収益的支出で総費用は 86 億円となり、経常損益は 25 億円の黒字となりました。

次に、右側 2 本の棒グラフ、資本的収支について、資本的収入の総額 30 億円に対し、資本的支出が 76 億円で 46 億円の財源不足が生じていますが、これは企業内部の留保資金（注3）などで補っています。

### （2）第4次中期経営計画との比較

2ページ下段（2）は決算見込み額と第4次中期経営計画を比較したものです。

左側は収益的収支で、このうち収入計は、上から5段目、計画額 110 億 8,500 万円に対し、決算見込み額は 111 億 3,100 万円で、計画比では プラス 4,600 万円 0.4%の増収となりました。これは主に3年度の料金収入が改定後はじめて通年で新料金体系が適用されることによるものです。

続いて、支出計は下から2段目、計画額 101 億 7,100 万円に対し、決算見込み額は 86 億

2,800 万円で、計画比では マイナス 15 億 4,300 万円 15.2% の減となりました。これは主に人件費、物件費、企業債利息等が減少したことなどによるものです。

なお、最下段の経常損益（黒字）は、計画額 9 億 1,400 万円を 15 億 8,900 万円上回る、25 億 300 万円を計上しています。この利益は、今後、議会の議決を経て、令和 5 年度の資本的支出の財源として使用する予定です。

続いて右側は資本的収支で、収入計は、上から 5 段目、計画額 40 億 4,600 万円に対し、決算見込み額は 29 億 8,900 万円で、計画比では マイナス 10 億 5,700 万円 26.1%の減額となりました。次に、支出計は、最下段の計画額 96 億 6,400 万円に対し、決算見込み額は、75 億 7,000 万円で、計画比としてはマイナス 20 億 9,400 万円 21.7%の減となっています。

収入及び支出の計画額との差額については、入札不調の発生により工事の着手が遅れたことで翌年度への繰越が増加したことや、設計の見直しなどにより不用額が発生したことによるものです。

### **3. 下水道事業会計の決算見込みについて（3 ページ）**

※決算額については、議会承認前となるため、すべて見込額として掲載。

#### **（1）下水道事業会計の決算見込み**

上段（1）決算見込みの棒グラフは、左から右に向かって、収益的収入、収益的支出、資本的収入、資本的支出の順で、一番左の棒グラフは収益的収入で 210 億円、その右の棒グラフは収益的支出で 196 億円となり、その差額の経常損益は 14 億円の黒字となりました。

次に、右側 2 本の棒グラフ、資本的収支については、資本的収入が 124 億円に対し、資本的支出が 226 億円で、102 億円の財源不足が生じていますが、これは企業内部の留保資金などで補っています。

#### **（2）第 4 次中期経営計画との比較**

下段（2）は決算見込み額と第 4 次中期経営計画を比較したものです。

左側は収益的収支で、収入支出ともに概ね計画どおりの執行であると評価しており、収益的収入は、上から 5 段目、計画額 208 億 6,600 万円に対し、決算見込み額は 210 億 2,600 万円で、計画比ではプラス 1 億 6,000 万円 0.7%の増収となりました。また下から 2 段目、収益的支出は、計画額 200 億 200 万円に対し、決算見込み額は 196 億 2,700 万円で、計画比ではマイナス 3 億 7,500 万円 1.8%の減となりました。

これにより、最下段の経常損益の決算見込み額は、計画額を 5 億 3,400 万円上回る、13 億 9,900 万円の純利益になり、今後 9 月議会の議決を経て、令和 5 年度の資本的支出の財源に充当する予定です。

続いて右側は資本的収支で、資本的収入は、上から 5 段目、計画額 127 億 5,400 万円に対し、決算見込み額は 124 億 3,000 万円で、計画比では マイナス 3 億 2,400 万円 2.5%の減収となりました。次に、資本的支出は、最下段の計画額 215 億 1,800 万円に対し、決算見込み額は、225 億 8,700 万円で、計画比ではプラス 10 億 6,900 万円 4.9%の増となっています。

資本的支出においては、令和 3 年度から新たな収入の確保として債券購入を開始し、11 億円分の地方債等を購入したことにより、決算額は計画額よりも大幅な増額になっています。

## 4. 主な実施事業（4、5ページ）

### （1）水道事業会計の主な事業

地震対策や老朽化対策を実施した外、政策1「危機管理を強化する」では、第4次静岡市上下水道事業中期経営計画に基づき、災害時に市民に水を配る給水拠点の整備を進めました。具体的には、駿河区中島児童館グラウンドに容量10万リットル（約4,800人×1週間分の飲料水の確保が可能）の耐震性貯水槽を設置し、災害に強いまちづくりを進めました。

### （2）下水道事業会計の主な事業

管や施設の地震対策や老朽化対策工事を実施した外、政策1「危機管理を強化する」の中で浸水対策として、雨水幹線やポンプ場などの整備を行い、令和3年度末時点で、浸水対策推進プランで浸水対策地区として位置付けられている下水道部が所管する26地区のうち、15地区の対策工事が完了しました。また令和3年度は、津波発生時に、雨水幹線に雨水が逆流してくることを防止する対策として、吐口にゲートを設置し、地震発生時及び津波警報発令時には安全かつ確実にゲート操作ができる遠方監視制御システムも完成し、ゲート設備とシステムともに4年度から供用開始しています。

## 4. 経営指標（6、7ページ）

水道事業及び下水道事業の主な経営指標を掲載しています。例えば、各事業においてかかった経費を、水道料金又は下水道使用料で、どのくらい賄われているかを示す指標、水道事業会計でいうと6ページ一番上の「料金回収率」、下水道事業会計でいうと7ページ一番上の「経費回収率」を政令市平均と比較する形で掲載しております。

### ※注釈

#### 注1：減価償却費

長期にわたって使用する資産としての固定資産について、取得費用の全額をその年の費用に計上せず、使用可能な期間（法定耐用年数）で分割して費用計上する経理処理のことです。

#### 注2：企業債

管や施設の整備・改築・更新などの経費に充てるために国等から長期で借り入れる借金のことです。

#### 注3：留保資金

減価償却費などの現金支出を伴わない支出などによって、企業内部に留保される自己資金のことです。  
（補てん財源ともいいます）